



よこはま



HP : <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>



◇目次◇

- 1 新幹部の紹介・新人の抱負
- 2 南関東防衛局長からの感謝状贈呈・在日米海軍司令官の着任訪問
- 3 米軍提供施設の返還
(横浜ノース・ドックの一部返還)・(富岡倉庫地区の全部返還)
- 4 日米親善交流事業(横須賀)
- 5 日本三大奇祭「吉田の火祭り」
「横浜開国博Y150」開催
- 6 関係自治体だより

編集企画:南関東防衛局 広報紙「よこはま」編集委員会
発行:南関東防衛局 総務部報道室 Tel 045-211-7129
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎

新幹部の紹介

管理部長 舘山清文（昭和24年生）

平20. 8. 1 本省地方協力局提供施設課整備調整官
平21. 4. 1 現職



4月1日付けで管理部長になりました舘山です。
今年、横浜は1859年（安政6年）の開国・開港から150周年を迎え、横浜開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」が開催されており、活気を呈しています。

横浜での勤務は、旧横浜防衛施設局時代を含め3回目となりますが、また、新たな緊張感を持ち、地道に一つ一つの課題に取り組んでまいりたいと思います。

とりわけ、情報を共有するなどにより風通しのよい職場環境作りに心がけると共に、関係自治体や住民の皆様方、並びに関係機関等と協力・協調し、円滑な業務処理に最善を尽くしたいと思います。

新人の抱負

調達部建築課 佐藤瑞紀

私は幼い頃から建築の仕事に携わりたいと思い勉強してきましたが、就職を考えた時により多くの人のために知識を生かせる仕事に就きたい、また、地元が横須賀で自衛隊が身近な存在にあるため興味を持っており、私も防衛省職員として働きたいと思い建築分野で防衛技官を志望しました。

先日、初めての出張で浜松基地へ行かせて頂いたのですが、次々と離着陸する航空機やレーダー、自衛官の方々を間近で見て自分は防衛省職員であるということを感じ、とても身の引き



締まる思いがしました。

現在、入省して2か月が経とうとしていますが毎日覚える事が多く大変です。その一方で新発見も多く刺激的でとても充実した日々を送っております。まだまだこれから自分に甘えること無く、先輩方の足を引っ張ることのないように日々、努力して行こうと思います。

企画部住宅防音課 早川祥吾

入省してから約2か月が経ちましたが、毎日が学ぶことばかりで戸惑いの連続です。先輩方の後ろに付き、勉強続きの毎日ですが、充実した日々を送れていると実感しています。

様々な研修を経て少しずつではありますが社会人として、また、防衛省職員としての自覚を持つようになりました。特に滝ヶ原駐屯地における体験入隊では、今まで余り接点のなかった自衛官の方々とお話しする機会を得て、自衛官の皆さんの士気の高さや、使命感の強さを実感して参りました。それ以外の様々な講義も非常に興味深く大変勉強になりました。

仕事は現場で覚えるのが一番良いと教えられ、また自身もそう感じています。一つ一つの仕事を確実に覚え、応用できる職員になれるよう努力していきたいと思っています。



南関東防衛局長からの感謝状贈呈



4月21日(左) ベルト在日統合法務局司令官
(於:南関東防衛局長室)

平成21年4月21日、当局が行う賠償業務の円滑な遂行に尽力され、また、様々な事件・事故の発生に際し、被害者や遺族への誠意ある対応をされるなど、多大な貢献を果たされ、さらに、捜査機関との協力や迅速な情報提供にも尽力されたことに対し、在日統合法務局司令官スチュワート W. ベルト大佐に感謝状を贈呈しました。

平成21年6月1日、富士演習場の円滑で安定的な施設の使用の確保に貢献されたこと、また、地域社会との調和を図るため、キャンプ富士周辺の自治体及び住民との友好関係の構築に尽力されたことに対し、在日米海兵隊キャンプ富士諸職種協同訓練センター司令官ロバート G. ゴールデン3世大佐に感謝状を贈呈しました。



6月1日(左) ゴールデン3世キャンプ富士諸職種協同訓練センター司令官
(於:南関東防衛局長室)



6月3日(左) ウォルトマイヤー在日米陸軍基地管理本部司令官
(於:南関東防衛局長室)

平成21年6月3日、当局が行う基地行政の円滑な遂行に協力、また、周辺自治体及び住民にも配慮し、陸軍施設関係の諸問題の解決に尽力され、在日米軍再編に関連する問題を進捗させるため、日本政府の立場を理解し尽力されたことに対し、在日米陸軍基地管理本部司令官ロバート M. ウォルトマイヤー大佐に感謝状を贈呈しました。

在日米海軍司令官の着任訪問



4月14日 (左)レン在日米海軍司令官
(右)齊藤南関東防衛局長
(於:南関東防衛局長室)

平成21年4月14日、在日米海軍司令官リチャード B. レン少将は、齊藤南関東防衛局長を訪問しました。

同司令官は、原子力空母「カール・ヴィンソン」艦長、海軍作戦本部・航空母艦企画課長などを経て、空母キティーホークに司令部を擁する第5空母打撃群司令官に就任、その間、原子力空母「ジョージ・ワシントン」への交代に携わり、同月9日、在日米海軍司令官に就任しました。

米軍提供施設の返還

《横浜ノース・ドックの一部返還》



港湾施設(道路)

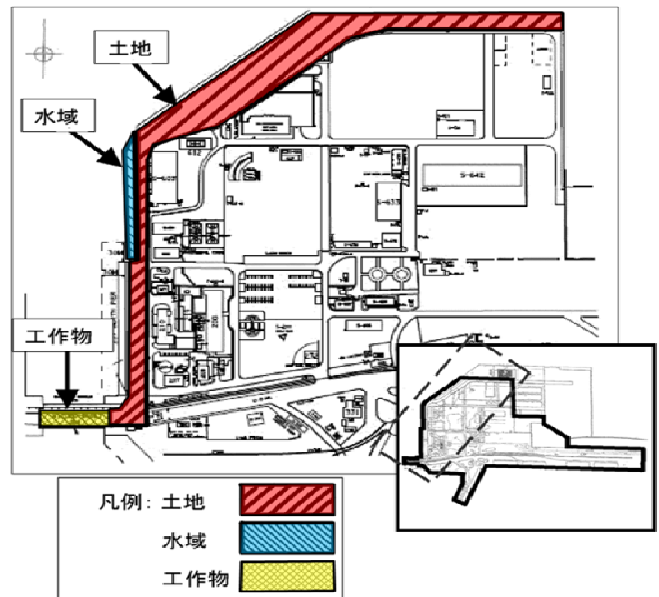
横浜ノース・ドックの一部土地等の返還につきましては、平成21年3月5日の日米合同委員会において合意されました。当該地区は、昭和47年から民間会社が進入路用地として共同使用、並びに、平成10年から横浜市が港湾施設(道路)用地として共同使用し、港湾利用に供していたところであり、平成21年3月31日、在日米軍との間で返還に係るすべての調整・手続きが整い、返還されました。今回、返還されたのは、民間会社が同社有地への進入路用地並びに横浜市が港湾施設(道路)用地として共同使用していた

土地約27,000㎡、水域約2,500㎡及び工作物(橋梁等)です。

横浜ノース・ドックは神奈川県横浜市神奈川区に所在し、昭和21年連合国軍に接收、昭和27年安全保障条約に基づき提供されたものであります。

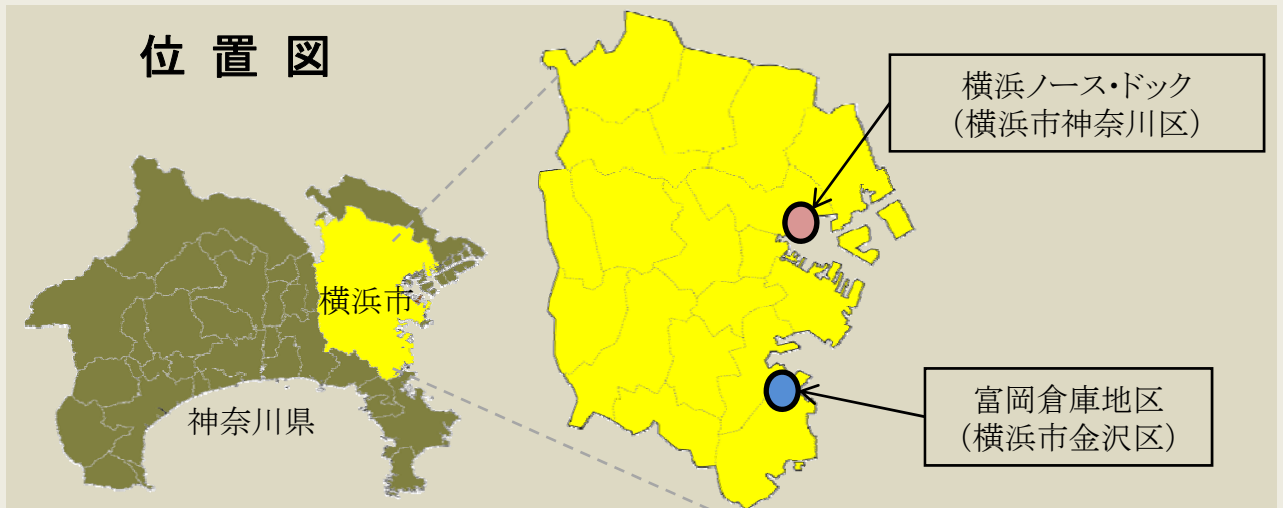
現在、在日米陸軍基地管理本部等の管理下において、海上及び陸上施設として重要な役割を果たしつつ、米軍輸送船等が発着している埠頭地区及び軍事郵便業務を行っている郵便地区として使用しています。今回の返還により、当該施設・区域の土地面積は、約523,000㎡となりました。

FAC3067 横浜ノース・ドック



所在地:神奈川県横浜市神奈川区

位置図



米軍提供施設の返還

《富岡倉庫地区の全部返還》

神奈川県における在日米軍施設・区域の整理等については、地元などからの強い返還要望を受けて、平成15年から日米間で協議を重ねた結果、横浜市内の6施設・区域（約419ha）の返還及び池子住宅地区及び海軍補助施設の横浜市域での700戸程度の米軍家族住宅などの建設について、平成16年10月、日米合同委員会において合意がされたところです。

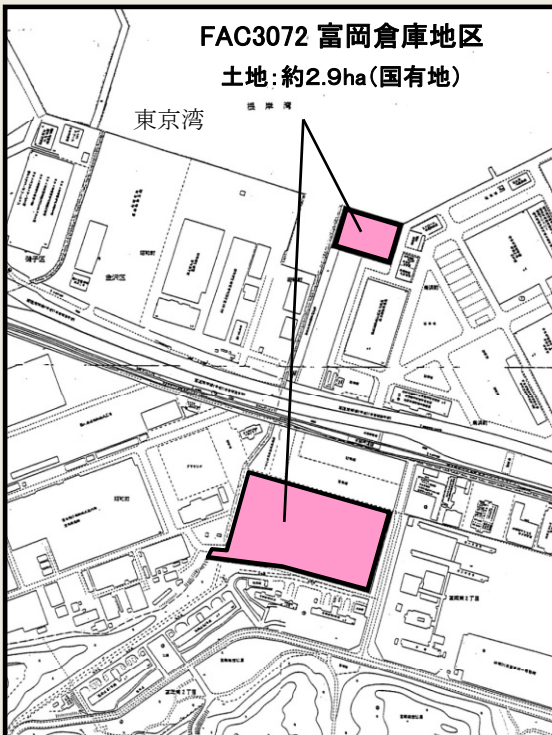
富岡倉庫地区の返還については、在日米軍との間で返還に係るすべての調整・手続きが整い、平成21年5月25日に全部返還され、同日、齊藤南関東防衛局長から中田横浜市長に対して返還された旨の通知文書を手交しました。

当該施設は、面積約2.9haを有し、神奈川県横浜市金沢区富岡町及び同区鳥浜町に所在しており、昭和9年10月11日、旧海軍横須賀鎮守府は施設用地取得のため公有水面の埋立承認を得て、昭和11年8月11日に埋立地が竣工、同年10月1日、本地に横浜海軍航空隊が開設され、我が国における初めての飛行艇基地として使用されてきました。

終戦後の昭和20年9月、連合軍に接收され、昭和27年7月、FAC3072第508通信修理隊として提供され、昭和36年12月、現在のFAC3072富岡倉庫地区に名称変更されました。その後、昭和45年9月23日、米陸軍から米海軍に管理権が移管されましたが、翌、昭和46年2月17日、当該施設・区域の大半が返還され、その跡地は神奈川県警察本部の機動隊訓練場敷地及び富岡総合公園敷地、国家公務員宿舎敷地等として使用されております。



(左)齊藤南関東防衛局長 (右)中田横浜市長



所在地:神奈川県横浜市金沢区

当該施設は現在まで米海軍厚木航空施設司令部の管理下で資材の積み卸し及び一時保管場所として使用されてきました。

他方、横浜市は、富岡倉庫地区の返還跡地利用について、「米軍施設返還跡地利用指針」を策定し、交通利便性が高い臨海部に位置することから、立地特性を活かして新たな産業振興・経済発展に寄与する空間形成を目指すとのことです。

当局としては、引き続き、池子住宅地区の横浜市域における米軍家族住宅の建設と深谷通信所など残る4施設・区域^(注)について、在日米軍と返還に向けて協議・調整をするとともに、横浜市とも連携し対応して参りたいと考えています。

〔注:平成17年12月 旧小柴貯油施設が返還されている。〕

日米親善交流事業（横須賀）

3月15日、横須賀市内にある横須賀アリーナ第2体育室で、米海軍横須賀基地周辺住民の人たちと米軍人やその家族とが日米親善交流事業の一環として剣道教室を開催し、日米の児童等合わせて約150人が参加しました。これまで横須賀市内では、既に多岐多様な文化やスポーツでの日米の交流が実施されているところです。



打ち込み体験

今般の交流事業は、南関東防衛局が主催した初めての事業で基地周辺住民と米軍人やその家族との相互理解をより一層深めるとの趣旨の下、わが国の武道である剣道を体験してもらい、武道を通じて日本の伝統文化に触れ、それを教え学ぶことにより日米の交流を図ることを目的に実施したものです。

剣道教室では、地元の横須賀剣道連盟の先生方や児童（幼稚園から小学6年生）らによる模範稽古が披露され、その後、サリバンスクールの校長先生と児童は防具を装着し、竹刀を持って剣道を体験しました。米側の児童たちは初めての防具の装着にとまどっていましたが、日本側の児童らが積極的に話しかけながら手伝ったり、竹刀の握り方や素振りの仕方などをボディー・ランゲージと片言の英語を交えながら教えている姿は、お互いにとっても楽しそうでした。装着後は、地元剣道連盟の先生方の指導を得て、児童らは「メン、



竹刀の握り方はこうだよ！

ドウ、コテ」と元気よく声を掛けながら打ち込み稽古に励んでおりました。また、児童たちの様子を見ていた保護者たちは、日頃見ることができない我が子の勇士を写真に撮って満足そうに微笑んでおり、言葉は通じなくても剣道を通じてお互いに楽しんでいる姿が印象的でした。一方、日本側の参加者は剣道教室の開催に先立ち、基地内のサリバンスクールの施設などを見学し、授業に参加するなどアメリカでの教育環境の一端を体験しました。なお、今後における本事業の開催については、今回のモデル事業の結果を踏まえて検討していくこととしております。



剣道教室に参加した日米の子供達



剣道は楽しかった！

日本三大奇祭「吉田の火祭り」

富士吉田市では、富士山の夏山シーズン幕開けは7月1日の山開きに始まり、8月26日の「吉田の火祭り」で山じまいとなり、富士北麓の短い夏の終わりが告げられます。

「吉田の火祭り」は、北口本宮富士浅間神社と諏訪神社の秋祭りで、島田（静岡県島田市）の帯祭り、国府宮（愛知県稲沢市）のはだか祭りとともに、日本三大奇祭の一つに数えられています。

8月26日午後、富士山の型をした御山神輿と大神輿が神社を出発し、去りゆく夏を惜しみながら登山の安全に感謝し、五穀豊穡の願いを込めて街中を練り歩きます。晩夏の陽が落ち夕暮れが迫るころ、市中に設けられたお旅所に2つの神輿が奉安されると、約2キロに及ぶ沿道には高さ2m、直径90cmの大たいまつ約80本に、氏子の家々の前に井ゲタに組まれたたいまつとともに一斉に点火され、街中は火の海と化し、夕闇に赤い炎が天をこがす様は見事なものです。祭りに練り出す見物者は約15万人を数え、大たいまつを身を受けながら、去りゆく夏の風情を存分に楽しみ、そして秋への思いをはせる情緒豊かで勇壮な祭りです。

火祭りは、防火・安産・道中安全や産業の守護神としてあがめ・奉られている“木花開耶姫命（コノハナサクヤヒメノミコト）”の故事にならったものと伝えられています。

また、翌27日には「すすき祭り」が行われます。本来は本祭りであるこの日は、昼からお旅所を出発した2つの神輿が街中を渡御し、富士吉田市のシンボルでもある浅間神社の一の鳥居・金鳥居で神事を終えたあと更に町を練り歩きます。



火祭り



すすき祭り(神輿)

神輿を担ぐ勢子と氏子や見物客が一体となって、夕刻かがり火の迎える中浅間神社へと神輿は向かっていきます。神社境内に入った神輿は、氏子ら共に高天原を廻り、勢子や氏子の掛け声は最高潮に達し、火祭りのクライマックスを迎えます。

御山神輿は3回地面にドサンドサンと打ち落とされ、祭りの持つ神秘さと豪快さとが奇妙なコントラストを醸しており、その神々しさは見物者らの心に深く感銘を与え、富士北麓の夏の祭りは幕を落とします。

(吉田防衛事務所)

「横浜開国博Y150」開催！

1859年(安政6年)の開港から、今年で150周年を迎えた横浜では、横浜開港150周年記念イベント「開国博Y150」（横浜開港150周年協会主催）が開催されています。

同開国博は4月28日から9月27までの約5か月間(153日間)開催され、多彩なイベントが市内各地で展開されています。会場は、「ベイサイドエリア」（赤れんが倉庫周辺）（4月28日～9月27）、「マザーポートエリア」（横浜駅周辺～山下・山手地区）（平成21年末まで）、「ヒルサイドエリア」（よこはま動物園ズーラシア隣接地区）（7月4日～9月27日）の3エリアで開催されています。

中でもメインのイベント会場となっているベイサイドエリアでは、日本初上陸となったフランスの世界的アート集団「ラ・マシン」が制作した高さ最大12mの巨大アート・マシンの”機械仕掛けのクモ”や、本イベントのために制作された、オリジナルアニメ映画などが上映されています。全国のイベントの中で最も注目される祭典となることが期待されています。横浜の歴史と未来への夢を体感してはいかがでしょうか。



巨大アート・マシンの”機械仕掛けのクモ”

関係自治体だより

浜松市は、静岡県西部に位置し、東は天竜川、西に浜名湖、南は遠州灘、北に赤石山脈と四方を豊かな自然に囲まれ、面積は、1,511.1km²という全国で2番目の広さを有しています。人口は県内最大の82万人を擁し、平成19年4月には全国で16番目の政令指定都市となっております。

古くから繊維産業などの産業が発達し、現在では、オートバイや自動車などの輸送機器産業や楽器産業に加え、光関連産業や電子産業などの先端技術産業の集積も進み、「やらまいか精神」に代表される旺盛なチャレンジ精神によって、めざましい発展を見せています。

また、気候も温暖で豊かな自然に恵まれ、果樹栽培や施設園芸を中心に全国4位の農業産出額を誇っています。

今年のビックイベントとして、9月19日から11月23日にかけて、国内初開催となる「浜松モザイクカルチャー世界博2009・浜名湖立体花博」を予定しています。国内外から80を超える作品が「人と自然のシンフォニー」をメインテーマに、花と緑の未来庭園を世界へ発信してまいります。皆様のご来場をお待ちしています。

浜松市には、大正4年に旧陸軍の飛行第7連隊が置かれ、昭和8年には現在の航空自衛隊浜松基地の南地区に爆撃機搭乗員の養成などを目的とした浜松陸軍飛行学校が設立されました。戦後は、航空自衛隊で初めて航空団が置かれるなど航空自衛隊発祥の地としての歴史があります。また、平成11年4月には航空自衛隊広報館「エアーパーク」が開設され、本年、来館者が300万人を突破するなど、多くの市民や観光客などで賑わっています。

かつて浜松基地の周囲は農業地域でしたが、近年では、土地区画整理事業などにより急速に都市化が進み、航空機騒音をはじめとする新たな課題も生じてきています。

今後とも、浜松市では防衛施設を抱える自治体としての課題や周辺住民の要望などを踏まえ、南関東防衛局に対し市民が安全で安心できる快適な生活環境の整備について、これまでと同様のきめ細やかな取り組みを期待しております。

(浜松市生活文化部市民生活課)



浜松市のランドマーク アクトシティ



浜松市“福”市長 ウナギイヌ